

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）

令和3年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合評価
火山噴火後の土砂流出継続期間の検討 (研究期間：R3年度～R5年度)	宮崎大学 准教授 篠原慶規	A
<研究概要> 長崎県水無川流域では、雲仙岳の活動休止後も長期間にわたり、土石流発生、土砂流出が継続してきたが、2017年以降は減少傾向にある。本研究では、土石流発生域となっている炭酸谷・極楽谷を対象と、地形変化、水・土砂流出等のモニタリングを実施する。過去のデータも合わせて解析することで、炭酸谷・極楽谷で土砂流出が収束したと判断できる地形・植生等の条件を提示し、それに至るまでの期間を予測することを目指す。		
<事後評価コメント> 本研究では、雲仙普賢岳水無川流域を対象に、多数のモニタリングおよび多角的なデータ収集と解析により、地形・植生等の条件を用いて火山地域における土砂移動収束の目安時期と要因を明らかにした。これらの研究成果は、火山地域における長期的な砂防施設や土砂の管理計画の策定に資するものと大いに期待できる。 今後は、水無川流域での観測・研究を継続するとともに他火山における適用性の検討を進めていただきたい。		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとはいえない